

# 演目の解説

## 【創作舞】平安舞

十二単の舞は即入礼で舞われる「五節舞」が有名です。「五節舞」は儀礼舞として重厚な舞なのですが、原笙会創始者原祥子は、東儀秀樹氏作曲の「真珠庵」を聞き、この伴奏で舞を作りたいと思い立ちました。ご諒解を得て五節舞の手ぶりも取り込みながら、平成の十二単舞を創りました。十二単という装束の動きの制約を受けながら、このシンセサイザーと雅楽器が織りなす新しい音楽の伴奏で、軽やかに舞います。

## 【舞楽】埴破（はんなり）

曲の由来は不明です。別名〈登玉舞〉〈弄玉〉から推察されるように、五色に塗り分けた宝珠型埴玉を持って舞います。装束は、巴紋様を五カ所につけた錦縁襷襷の別装束であったことが古記に見えますが、現在では柏樟の装束を用います。古記によると、この玉の中に干した蒲の穂を入れておき、舞い終わると破ったとあります。別の古記では、細かく切った紙を入れたり下とも書かれています。「干した薬草を詰めた埴玉を持って舞ったともいわれる『埴破』ワクチン薬の効果で、少しでも新型コロナウィルス感染症拡大が抑えられるよう、埴玉に願いを込めて舞います。

## 【舞楽】蘭陵王（らんりょうおう）

単に「陵王」とも呼ばれ、舞楽の中でも最もよく知られている代表的な曲で、「納曾利（なそり）」と番舞（つがいまい）になっていきます。

一説に中国の南北朝時代、南陵王長恭という智勇共にすぐれた武将が、容姿が女性のように美しく優しかったので、出陣の際は士気を鼓舞するため、金色の恐ろしい面をつけ、大勝を博したのでその武勇をたたえて作られたといわれています。

装束は、竜の唐織りの襷襷（りょうとう）装束、雲形地紋の緋の袍をつけます。舞人は金色竜頭の面（童舞の場合は天冠）をつけ、手に金色の桴を持ちます。

## 【管弦】越天楽（えてんらく）

雅楽の唐樂曲。越殿樂とも。舞はなく管絃（かんげん）のみ。盤渉調（ばんしきちよう）、黄鐘調（おうしきちよう）、平調（ひょうじょう）の3種がある。盤渉調越天楽が原曲で、他の二つは「渡物（わたしもの）」（一種の移調）として16世紀ごろつくられたという。いずれも明確な三部形式。楽曲全体を三返（あるいは五返）繰り返す間に楽器を減じ、箏（そう）の技法を強調して聞かせる「残樂（のこりがく）」の奏法でしばしば奏される。平調越天楽は雅楽、ひいては日本音楽の代表曲

## 【管弦】長慶子（ちょうげいし）太食調

平安時代の源博雅作曲といわれています。

舞を伴いませんが舞楽曲に分類されています。舞楽が終了し、退出を促す退出音声として必ず演奏されます。

### ◆ご来場・ご観覧にあたっての注意事項◆

- ・入場・観覧にあたっては、必ずマスクを着用ください。
- ・体調の優れない方など、感染症の疑いのある方のご入場はお断りすることがあります。
- ・会場内では係員の指示に従っていただきます。
- ・駐車場はございますが限りがございますので、なるべく公共交通機関を等を利用してお越しください。

### 【お問い合わせ先】

北九州雅楽振興後援会

TEL093-921-2292

(妙見神社内)

<http://www.myouken.or.jp>

